

## JFK : 40 年前を懐古して

2003.11.23

I.Nishida

(Richmond E.S.)

今から 42 年前(1961.1)、アメリカ国民は当時 43 歳の若きジョン・F・ケネディをアメリカ第 35 代大統領に選びました。そして、2 年後の今日(1963.11.23)、彼はテキサス州のダラスで一人の男の銃弾によって暗殺されました。

このケネディ暗殺の様子は、当時、太平洋上の静止通信衛星（たしか、Early Bird（早起き鳥）といった）を使った初の日米間のテレビ中継番組で放送されました。私も、この放送を見た者の一人でした。当時は、言うまでもなく、ソ連とアメリカを両極とする厳しい東西冷戦の時代でした。アメリカのスパイ偵察機 U2 がソ連上空で撃墜されたり、また、ソ連は、アメリカのすぐお膝元のキューバにミサイル基地を建設していました。

このような状況下にあって、アメリカ国民は自由と民主主義というアメリカの建国理念・理想を高く掲げたケネディを大統領に選んだのでしょう。彼は、キューバ危機に対しては、ソ連のミサイルの輸送船団を海上封鎖(naval blockade)によってキューバ陸揚げを阻止するという実力行使をとり、あわやソ連との戦争かとの危機一髪まで緊張が高まりました。このような断固としたケネディの信念を見た、当時ソ連のクルフチョフ首相は、輸送船団に退転の命を下し戦争の危機はぎりぎり回避されました。

このような、ソ連共産主義に対して、アメリカ民主主義を掲げた若きケネディ大統領が誕生したときに、その就任演説を、教科書を放り出して何回も何回も読み上げてくれた当時の高校の英語教師が印象的でした。

.....

And so, my fellow Americans: ask not what your country can do for you--ask what you can do for your country.

My fellow citizens of the world: ask not what America will do for you, but what together we can do for the freedom of man.

Finally, whether you are citizens of America or citizens of the world, ask of us here the same high standards of strength and sacrifice which we ask of you.

.....

は今も引用されることの多い句です。

このようなケネディ・ブームの中で、ケネディ大統領が最も信頼し、また、閣僚として司法長官を務めていた弟・ロバート・ケネディが来日(1962.2)しました。早稲田大学・大隈講堂で「都の西北・・・」の轟くような大合唱の中で演壇に迎えら講演したのが印象的でした。しかし 6 年後の 1968.6 に、この兄にも劣らず有能といわれたロバート・ケネディもまた暗殺されるという事件が起こり、「悲劇のケネディ家」と呼ばれました。このように、民主主義を掲げるアメリカ社会にも、これを心由としない一派が現実存在するという暗い一面の事実の不気味な思いを持ちました。

ケネディ大統領がその在任中に、女優マリリン・モンローとの”不適切な関係”にあったことはほぼ事実だと言われています。そして、彼の奥さんであった、ジャクリーヌ・ケネディさんは後に、ギリシャの海運王オナシス氏と再婚しています。

ケネディが暗殺されて40年経ち、いまだ謎の部分も多く(暗殺者のオズワルドがすぐに暗殺された)、また、人間ケネディの実像も徐々に明らかにされてきていますが、私としては、若いときに何回も繰り返し声を上げて読んだケネディの就任演説に(英語の勉強としても)感銘を受けました。そして、余談ですが、ケネディが1960年代の終わりまでに人類を月に送るという夢のような約束しましたが彼はこれを実際に実現させました。1969.7.20、アポロ宇宙船11号が実際に月面に着陸し、アームストロング船長が月面に降り立ち歩くさまの実況テレビ中継を職場の地下の喫茶店でかじりつくように見ていました。当時、コンピュータの一技術屋としてシステム開発に携わっていましたが、途方もないアメリカの技術力の底力に舌を巻いていたのを懐かしく思い出します。

= 以上 =

(付録)

[ケネディの大統領就任演説のテキスト](#)を付録にあげておきます。

歴代大統領の中でも、格調高い名演説と言われています。ご興味のある方は一読してみてください。